

Let's Know Hiroshima Castle.



# しろや！ 広島城

No.73

新着資料紹介！！

## 里見雲嶺「文福茶釜図」「七夕ねずみ図」他 ～雲嶺先生とかわいい動物たち～

みなさんは、<sup>さとみうんれい</sup>里見雲嶺という画家をご存知でしょうか？今でこそあまり有名ではないかもしれませんが、雲嶺は明治から大正期にかけて、広島ではとても人気のある画家でした。今回は、広島城に近年新たに収蔵された資料のなかから、里見雲嶺「文福茶釜図」【図1】、「七夕ねずみ図」【図2】、「鹿図」【図3】の3作品を紹介したいと思います。

里見雲嶺は嘉永2年（1849）、白鳥（広島市中区）に生まれます。名は熊次郎。はじめ萩出身の中<sup>なか</sup>井<sup>なかい</sup>泰<sup>たい</sup>嶺<sup>れい</sup>に四条派の画を学び、のちに大坂の絵師・西<sup>にし</sup>山<sup>やま</sup>芳<sup>ほう</sup>園<sup>えん</sup>に師事しました。芳園の没後、明治のはじめ頃には広島に戻り、<sup>やまがた</sup>山<sup>じしゅう</sup>縣<sup>けん</sup>二<sup>に</sup>承<sup>じょう</sup>との交流を通じて、画の研鑽を続けていたようです。その後、明治20年代からは実力が認められるようになり、明治23年（1890）には、第三回内国勸業博覧会で報奨を受賞。明治27年（1894）には、日清戦争のため広島に滞在していた明治天皇の作品上覧という知遇を得ます。こうして、雲嶺は名実ともに広島画壇を<sup>けんいん</sup>牽引する存在となっていきました。雲嶺の画風は四条派の正統ともいべきもので、伝統的な画法による山水画や人物画を得意としながら、実風景、花鳥、動物などさまざまな画題を手掛けています。作風は、総じて柔らかで温かみがあり、特徴的な落款（サイン）も<sup>あいま</sup>相俟って、ひと目で雲嶺とわかるのも大きな特徴と言えます。なかでもとくに人気が高く作例も多いのが、【図4】のような<sup>いつくしま</sup>「<sup>らつかん</sup>厳島社頭図」をはじめとした、地元広島<sup>いつくしま</sup>の<sup>らつかん</sup>厳島の風景を描いた作品でした。



【図1】里見雲嶺「文福茶釜図」（部分） 広島城蔵

さて、そんな雲嶺先生の作品のなかで、今回紹介するような「かわいい」動物画は、少々毛色の異なる作品といえます。まずは、「文福茶釜図」【図1】。昔話「ぶんぶく茶釜」では、狸が茶釜に化けていましたが、本図では袈裟を着け坊主に扮した狸が、火にかけられた茶釜の前で、うつらうつら居眠りをしています。炉からは煙が高く上がっていて、今にも危険な空焚き状態。早く起きないと、尻尾に火がついてしまいますよ…と声をかけたくなるような、ユーモアあふれる作品です。一般的に知られる雲嶺の画は、正統派かつ真面目なものが多く、かなりイメージが違いますが、これはこれでなかなかチャーミングだと思いませんか？

「七夕ねずみ図」【図2】には、七夕飾りのついた笹を捧げ持つ大きな鼠と、提灯を持つ小さな鼠が描かれています。2匹は満面の笑みを浮かべ、とても楽しそうです。「文福茶釜図」と同じく動物を擬人化した戯画風の作例で、七夕飾りと鼠の組み合わせが描かれる例は珍しく、雲嶺の創作力の高さがうか

がえる一幅です。

「鹿図」【図3】は、画面いっぱいに後ろ向きの雌鹿を1頭ドーンと描いた、かなり独特な構図です。鹿は雲嶺お得意の厳島社頭図にも描かれていますが、単独でとりあげた例は珍しく、しかもかなり大きく描いているなど謎の多い作品です。肉付きのよいお尻が強調されており、見ると思わず笑みがこぼれるかわいらしい作品です。

残念ながら、明治期の新聞記事などを見ると、雲嶺先生の動物画はあまり評判がよくなかったようです。虎や兎、猿などの十二支の動物たちは、お正月の掛け物として一定の需要はあったようですが、人気の方はそこそこといった雰囲気。しかし、今回紹介した動物たちは、どれも現代の私たちから見ると、とてもかわいくてユーモラスではないでしょうか。もしや、時代が雲嶺先生のかわいいセンスに追いついてきたのかも…？ 令和の雲嶺先生ブームがやってきたら広島城的には大変うれしいなあ…と思う、今日この頃です。（吉田 文）



【図2】里見雲嶺「七夕ねずみ図」  
(部分) 広島城蔵



【図3】里見雲嶺「鹿図」  
広島城蔵 (岩崎エミ氏寄贈)



【図4】里見雲嶺「厳島社頭図」  
広島城蔵 (岩崎エミ氏寄贈)

# コラム —これからの広島城—

## 木造復元基礎資料の収集②

今回は絵葉書の紹介です。国内で絵葉書の発行が始まるのは、明治33年（1900年）頃のこと。旅行先の思い出や記念としてたちまちブームとなりました。広島城もさまざまな方角から撮影されたものが数多く発行されました。絵葉書は当時の建物の外観や内部の様子が確認できるので、オリジナル写真が少ない時期は貴重な画像資料です。特に、①鮮明である、②情報量が多い、③時期が特定（または推定）できる、などを満たせば復元基礎資料として十分役立ちます。写真A～ウは天守の北西面を、エは西面を撮影したものです。それぞれどんな特徴があるのか、どのような情報が読み取れるのか、ご紹介したいと思います。

【ア】



【イ】



ア 発行は明治の終わりから大正中中期。画質が鮮明で、北西隅の袴腰型の石落としや外壁の下見板張<sup>※1</sup>の質感、第三層の屋根を飾る千鳥破風<sup>※2</sup>の懸魚<sup>※3</sup>や突上窓の形状などがわかります。

イ 発行は大正中中期から昭和初期。アと同じ方角ですが、樹木が成長し、残念ながら北面の第三層以下や西面の第一層が隠れ、天守を支える石垣は全く見えません。ですが、第五層の華頭窓<sup>※4</sup>、西面各層屋根の出桁を支える方杖（頬杖）<sup>※5</sup>が鮮明に写っています。

【ウ】



ウ 発行はアと同時期ですが、第五層北面、西面の方杖の間隔が狭くなっている点が異なります。イや奈良文化財研究所所蔵の昭和初期の実測図（「しろうや！広島城 第70号」参照）には見られないことから、一時的に出桁を補強したのかもしれませんが。撮影時期はアより後年と考えられます。

エ 発行時期は明治の終わりから大正中中期。非常に鮮明でアやイと組み合わせれば北面、西面の石落とし、下見板張、懸魚などの復元精度がより高くなります。

【エ】



- ※1 下見板張：土壁の上に黒い板を張る外壁の仕上げ方。
- ※2 破風：天守の外壁を飾る三角形や半円形をした屋根の形式。位置や形によって千鳥破風、切妻破風などがある。
- ※3 懸魚：破風板の接合部に飾られる彫刻の部分。
- ※4 華頭窓：上部を火炎の形又は花の形に造形された窓。
- ※5 方杖（頬杖）：垂直材と水平材とが交わる個所に補強のために入れる斜めの材。

※写真はいずれも益田崇教氏蔵。

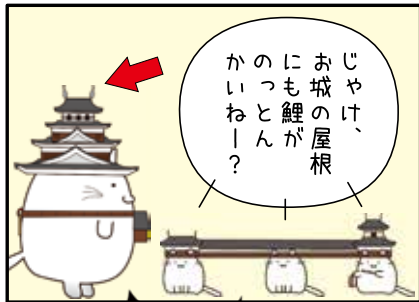
※絵葉書の発行年代の推定は、広島市郷土資料館図録「絵葉書の中の広島～閉じ込められた街の面影～」(平成27年(2015))に詳述されています。撮影年代と必ずしも重ならないので考証には注意が必要です。

(広島市市民局文化スポーツ部文化振興課)

# しろうニャ！広島城

## ～お城の屋根には何のせる？～

今回も、お城の豆知識を紹介してくれるしろうニャさん。そこにカワイイお友達がやってきてくれましたヨ。



天守の飾り瓦



飾り瓦の正体は・・・

「しろうや！広島城」No.15でもご紹介していますが、広島城の別名としてよく知られているものに「鯉城」があります。そのため、広島城天守のてっぺんにのっている魚のような瓦は「鯉」なのでは…と思っておられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

じつは、これは「鯉」という想像上の生き物とされています。その姿は、虎（龍とも）の頭をもち、背には鋭いトゲがあり、胴体は魚のような形をしていて、口から水を吐いて火を消す力があると伝えられています。江戸時代に著された『和漢三才図会』第49巻には、「鯉」は「魚虎」と紹介されており、火災除けとして城や櫓の屋根瓦に置くとも著されています。

昔の有名な慣用語に、「地震、雷、火事、親父」があります。これは、世の中の恐ろしいものを順に並べたものですが、日本は古くから木材でできた建物が多く、火事は大変恐れられていました。そのため、「鯉」は火除けの守り神として人々から大切にされてきたのでしょう。広島城には天守だけでなく二の丸の櫓や表御門にも見つけることができるので、ぜひ探してみてくださいね。

ところで、しろうニャさんのおやつ「小鯛」は、カタクチイワシのことで、広島の人々の味として親しまれています。お刺身にしても、天ぷらにしても絶品！とはいえ、しろうニャさん、食べすぎには気をつけてネ。（正連山 恵）

しろうや  
！  
広島城

編集・発行  
公益財団法人広島市文化財団  
広島城  
〒730-0011  
広島市中区基町 21-1  
電話：082-221-7512  
FAX：082-221-7519

令和4年9月10日発行

広島城利用案内

開館時間 9:00～18:00 (12月～2月は9:00～17:00)  
入館の受付は閉館の30分前まで  
入館料 大人370円(280円)  
高校生相当・シニア180円(100円)  
中学生以下無料  
( )内は30名以上の団体料金  
休館日 12月29日～31日(臨時休館あり)  
ホームページ <https://www.rijo-castle.jp>

「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます